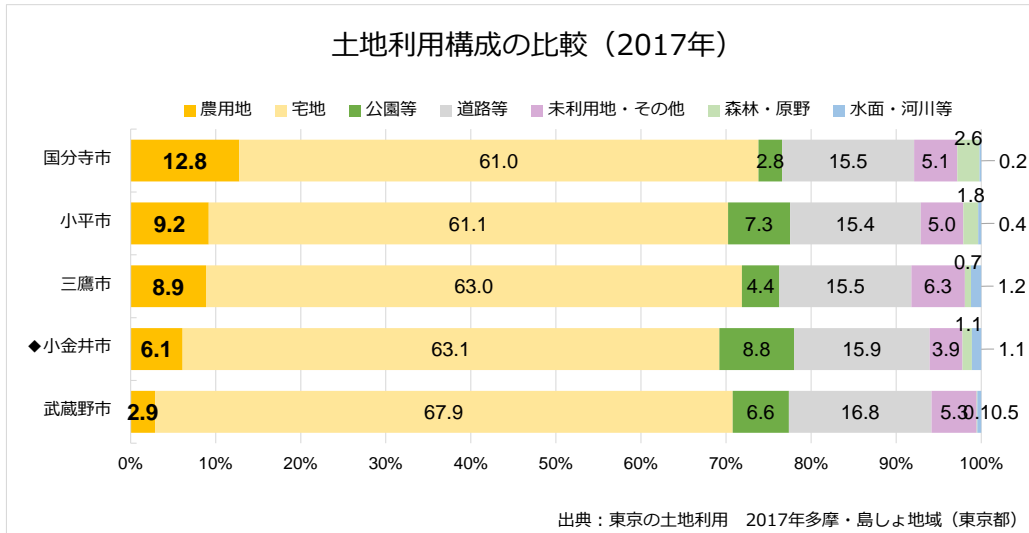


I 小金井市農業の現状

1 農地の状況

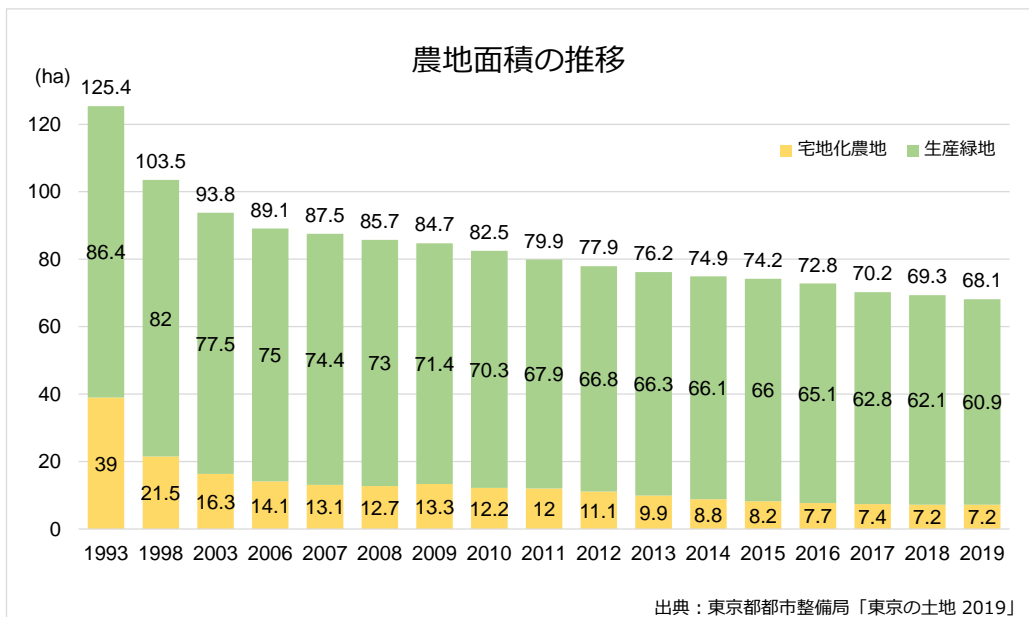
■市域面積に占める農地の割合の比較

土地利用構成について、JA むさしが管轄している5市（国分寺市、小平市、三鷹市、小金井市、武蔵野市）で比較すると、小金井市の農地面積の割合は約6%で、5市中2番目に少なくなっています。



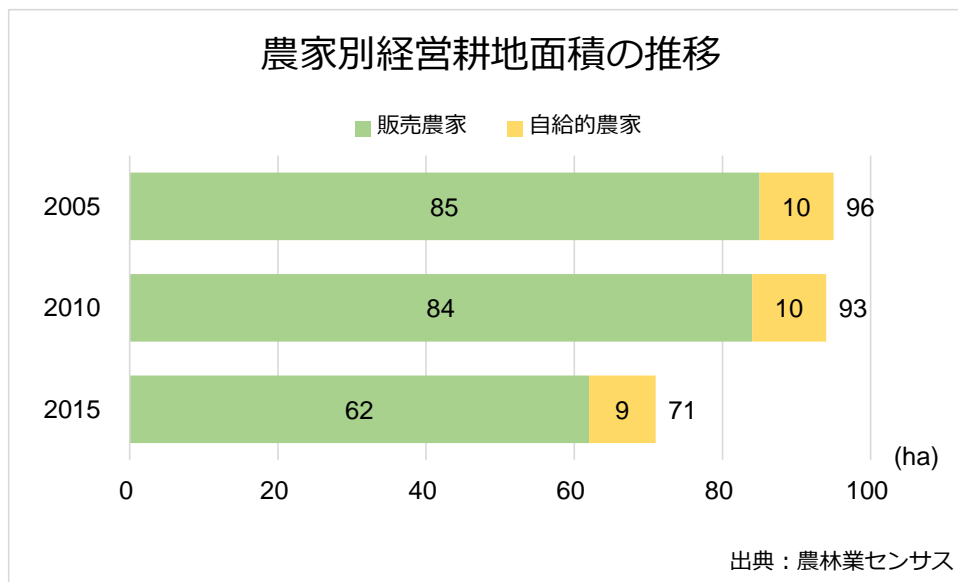
■農地面積の推移

2019年の「生産緑地面積」は約60.9haで、農地面積の約90%を占めています。生産緑地制度が改正された翌年の1993年と2019年を比較すると、「生産緑地」は約30%、「宅地化農地」は約81%、合わせて半数弱（約45%）の農地面積が減少しています。



■ 農家別経営耕地面積の推移

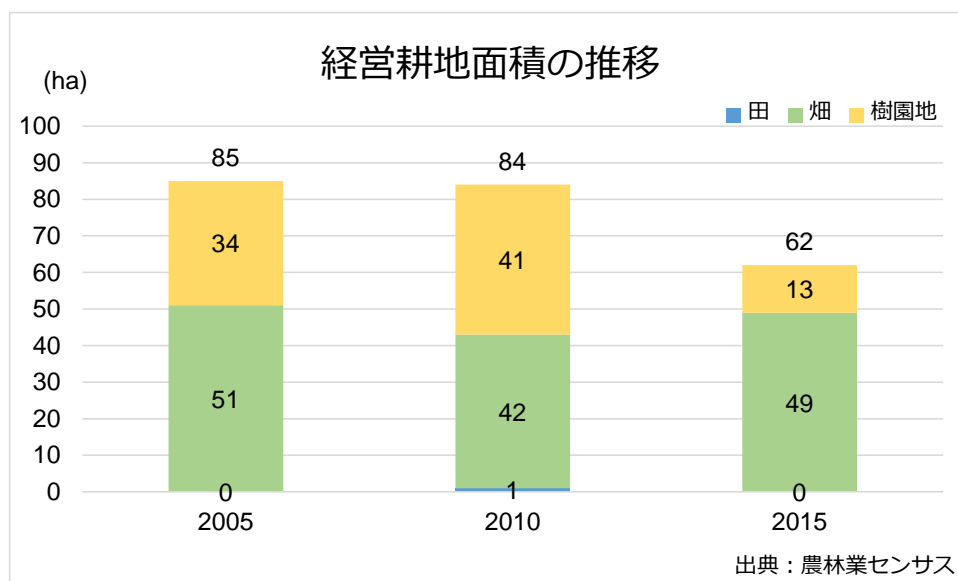
2015年の経営耕地面積は約71haで、「販売農家」が9割弱を占めています。2005年と2010年の「販売農家」と「自給的農家」の経営耕地面積は、ほぼ横ばいで推移している一方、2010年から2015年にかけて、「販売農家」の経営耕地面積は約22ha減少しています。



■ 経営耕地面積規模別面積推移

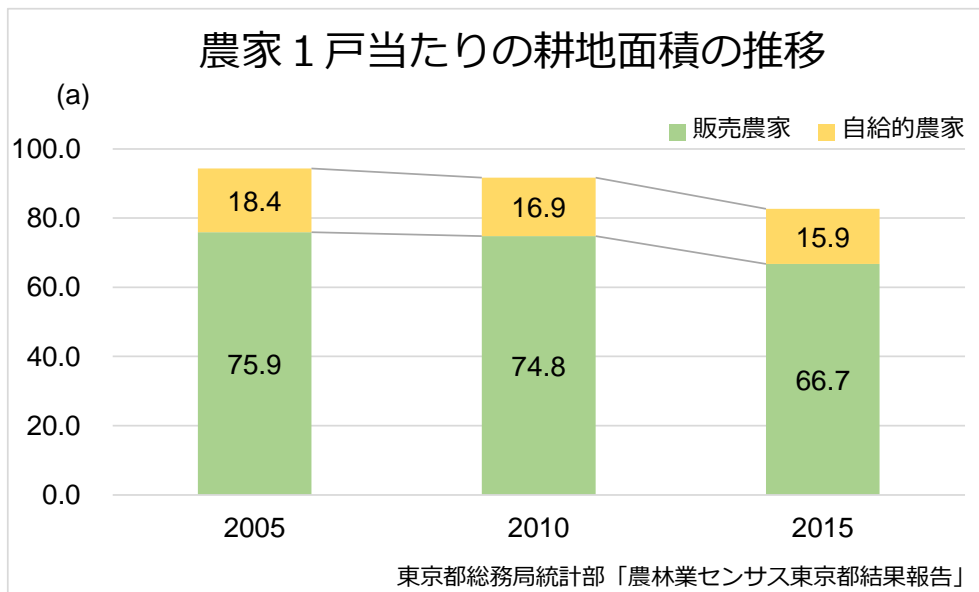
2015年の経営耕地面積は、「田」が0%、「畑」が約80%、「樹園地」が約20%を占めており、「畑地」が最も多くなっています。

2005年と2015年の経営耕地面積を比較すると、「樹園地」の減少（約21%減）が顕著で、「畑地面積」はほぼ横ばいで推移しています。



■ 農家一戸当たり耕地面積の比較

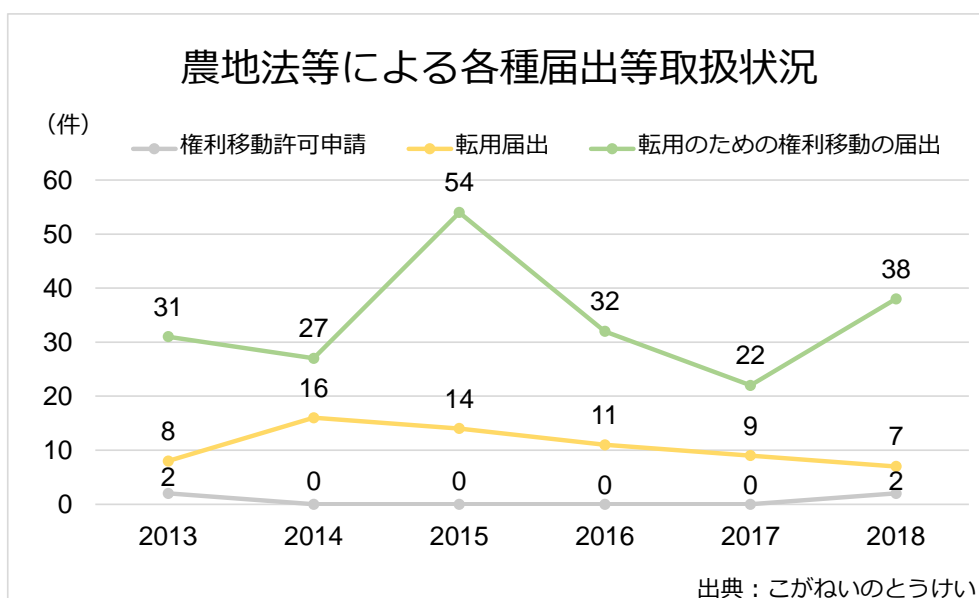
2015年の農家1戸当たりの耕地面積は、「販売農家」が約67a、「自給的農家」が約16aを占めています。2005年と2015年を比較すると、「販売農家」一戸当たりの耕地面積は約12%（9.2a）、「自給的農家」一戸当たりの耕地面積は13%（2.5a）減少しています。



■ 農地転用件数

2018年の「権利移動許可申請」は2件、「転用届出」は7件、「転用のための権利移動届出」が最多で38件ありました。

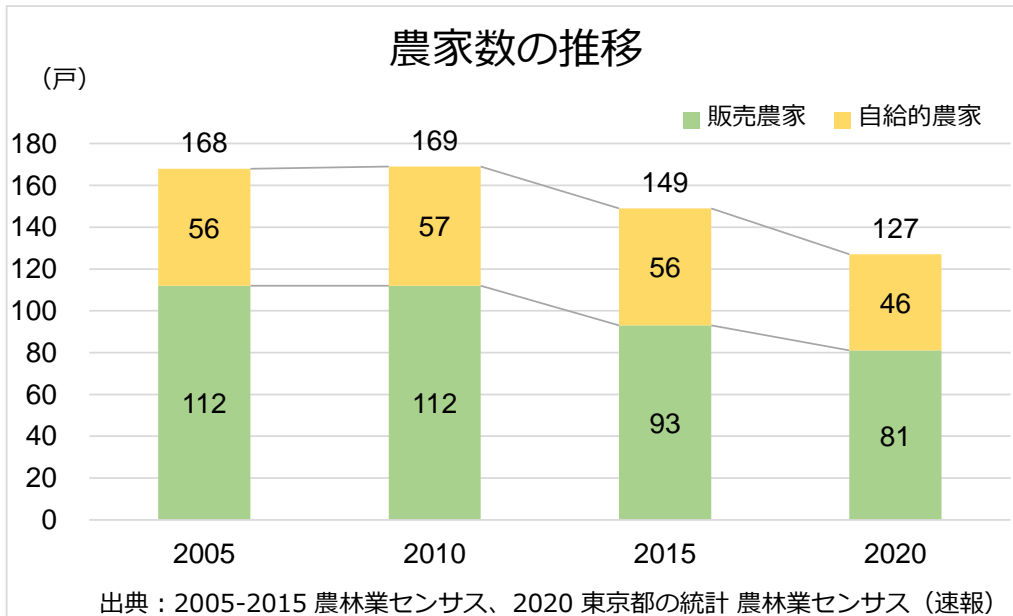
「転用届出」と「転用のための権利移動届出」数から、既存の農地を農地以外のものへ転用を検討している所有者が45戸いると推測され、さらなる農地の減少が懸念されます。



2 担い手の状況

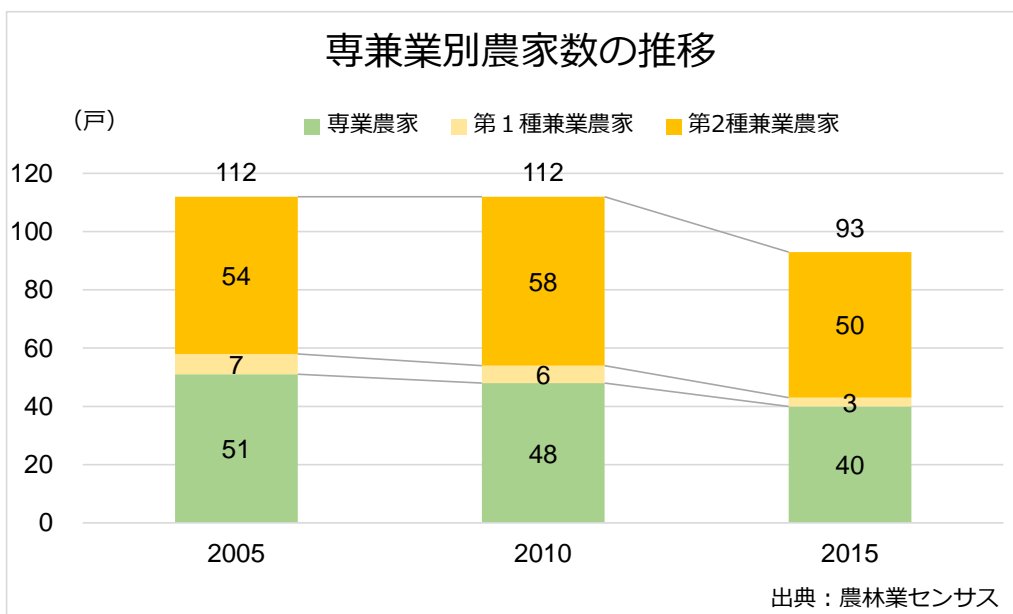
■ 総農家数（販売農家・自給的農家）の推移

2020年の総農家数は127戸で、うち81戸（約6割）が「販売農家」、46戸（約4割）が「自給的農家」です。2010年以降、「販売農家」、「自給的農家」とともに減少傾向にあります。2005年と比較すると、総農家数は41戸（約24%）減少しています。



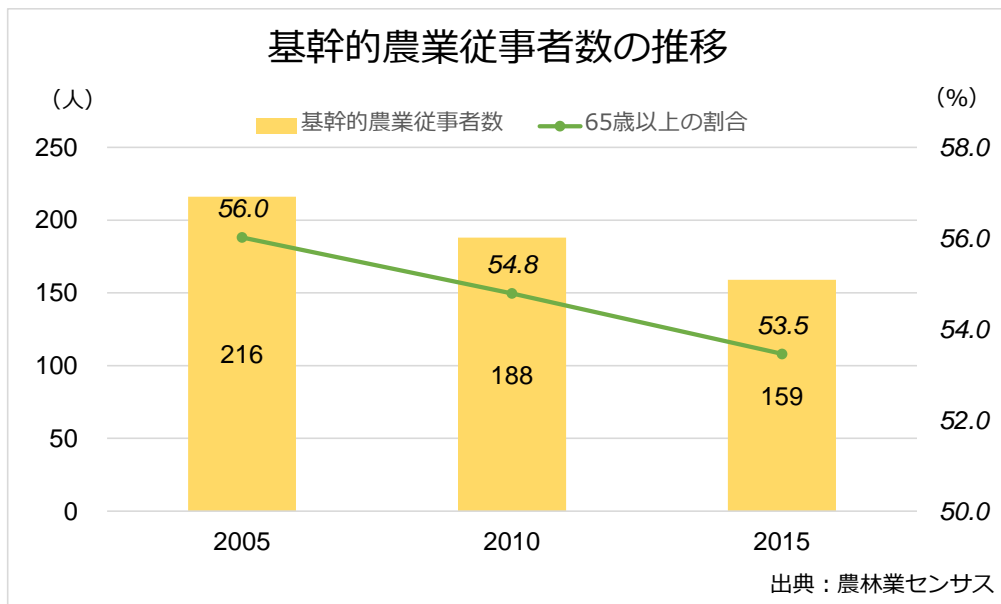
■ 専兼別農家数（専業・第1種・第2種）の推移

2015年の「専業農家数」は40戸で、全体の約40%を占めています。農業所得を主とする「第1種兼業農家」は最も少なく、3戸（約3%）にとどまっています。兼業所得が農業所得より多い「第2種兼業農家」は最も多く、50戸（約54%）です。2005年から2010年の農家数は横ばいで推移しているのに対し、2010年から2015年にかけては、19戸（約17%）減少しています。



■ 基幹的農業従業者数の推移

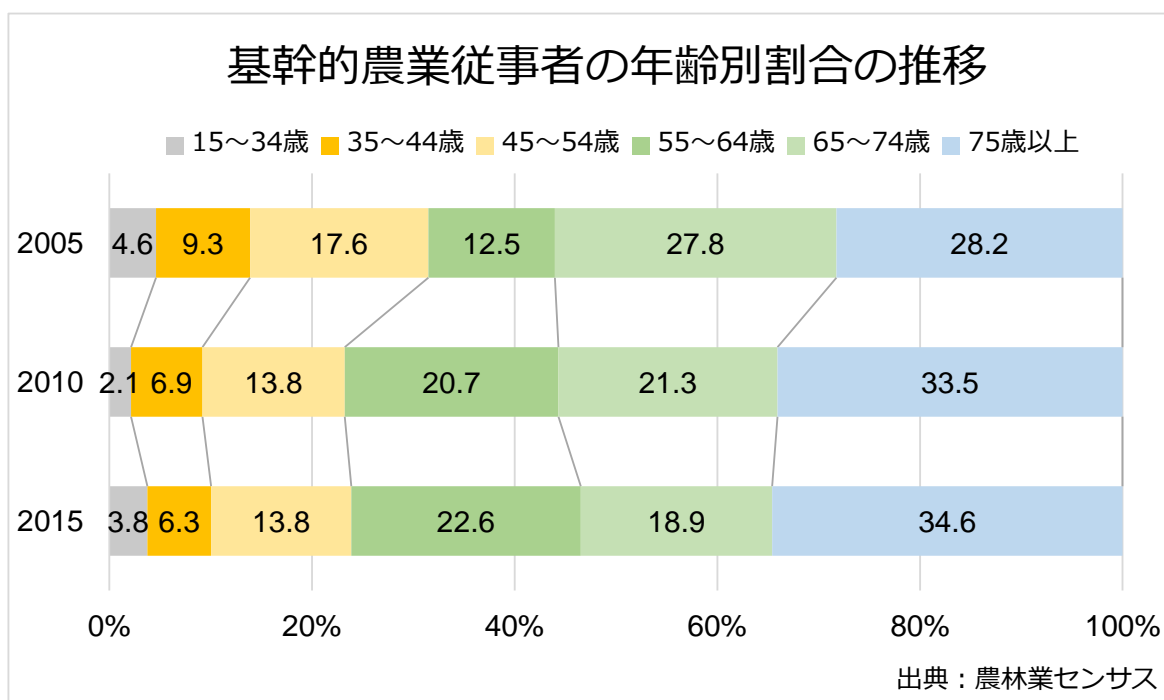
2015年の「基幹的農業従事者」（ふだん仕事として主に自営農業に従事している者）は、159人です。そのうち65歳以上が約54%（85人）を占めています。「基幹的農業従事者」数は減少傾向にあり、2005年と比較すると、57人（約26%）減少しています。また、65歳以上の割合も減少傾向にあります。



■ 基幹的農業従業者の年齢別割合の推移

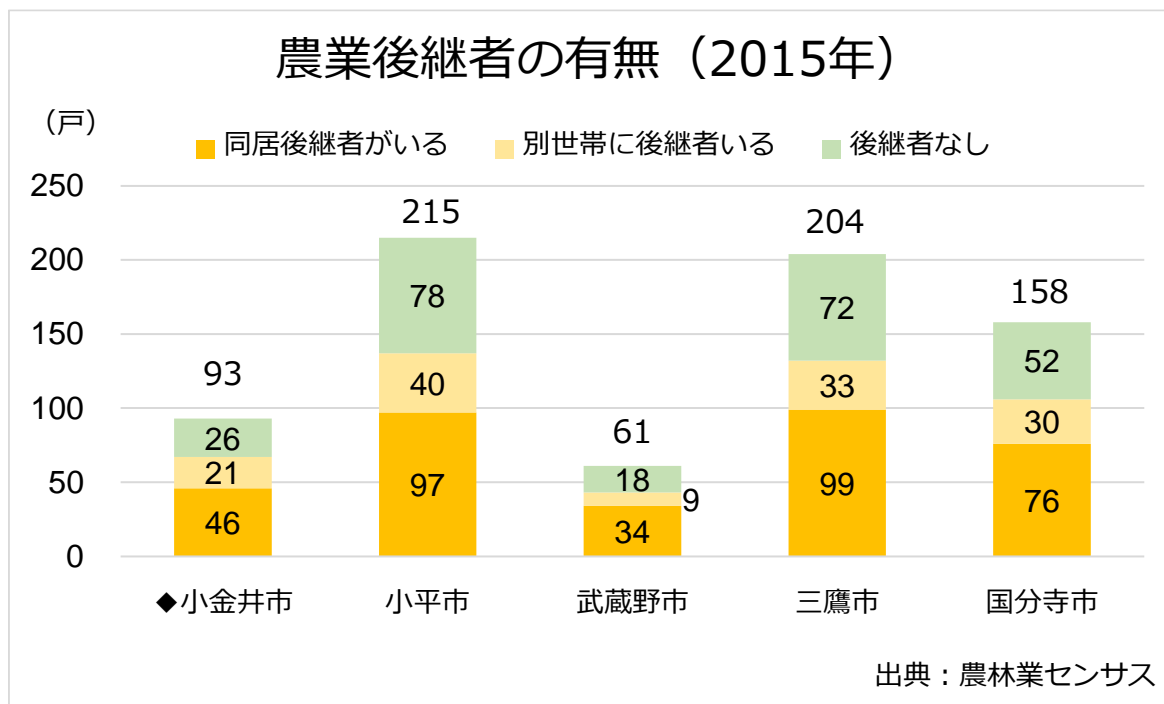
2015年の「基幹的農業従事者」の年齢を割合で見ると、「75歳以上」が最も多く、全体の約35%を占めています。最も少ないのは、「15～34歳」（約4%）です。

年齢構成の推移では、「15～34歳」～「45～54歳」を合わせた若い世代が減少傾向にあるのに対して、「55～64歳」～「75歳以上」を合わせた年齢層が増加傾向にあります。



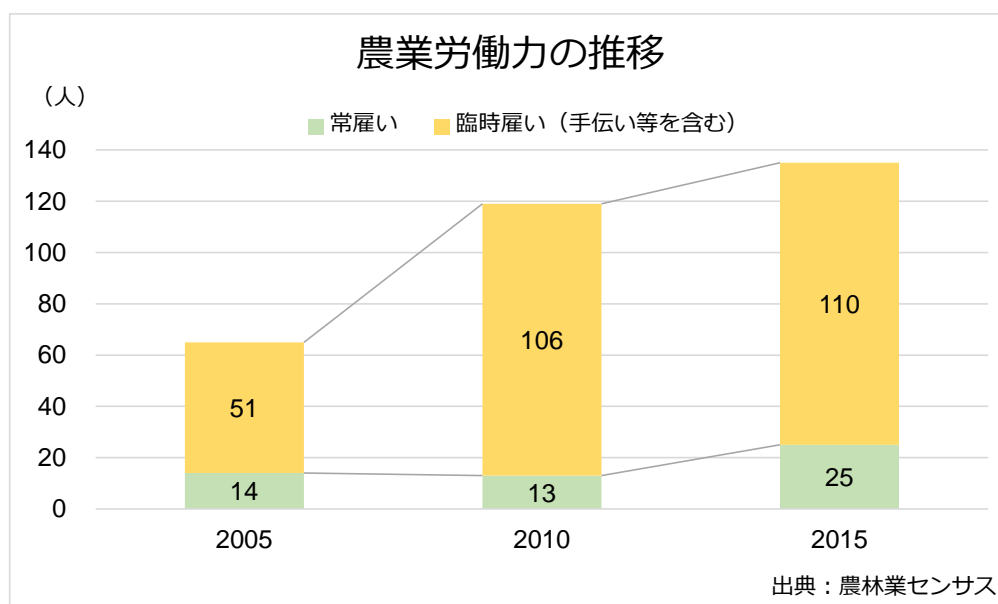
■ 農業後継者の有無

小金井市における農業後継者の有無は、「同居後継者がいる」農家が46戸（約50%）、「別世帯に後継者がいる」農家が21戸（約23%）、「後継者がいない」農家が26戸（約28%）で、合わせて67戸（約72%）の農家に後継者がいます。JAむさしの管轄市において、後継者の有無の割合を比較すると、「後継者がいる」農家が最も多いのは小金井市で、「後継者がいない」農家が最も多いのは小平市（78戸、約36%）となっています。



■ 農業労働力の推移

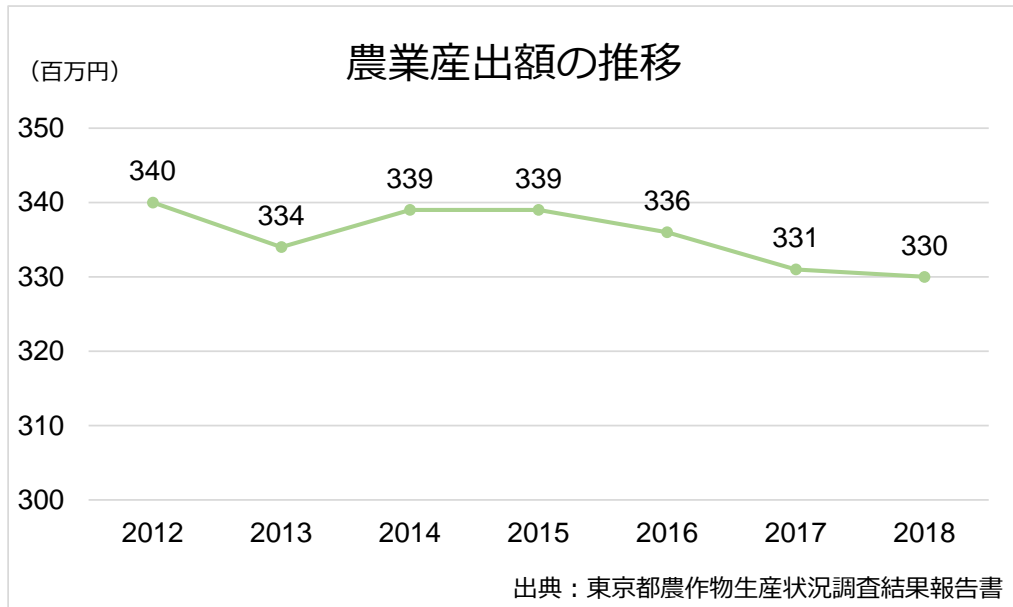
2015年の「常雇い」は25人、「手伝い等を含む臨時雇い」は110人で、農業労働力は増加傾向にあります。2005年と比較すると、「臨時雇い」を含む雇用人数は65人から135人に増えており、増加率は107.7%に上ります。農家数の減少に伴い、労働力が増加しているものと考えられます。



3 農業生産の状況

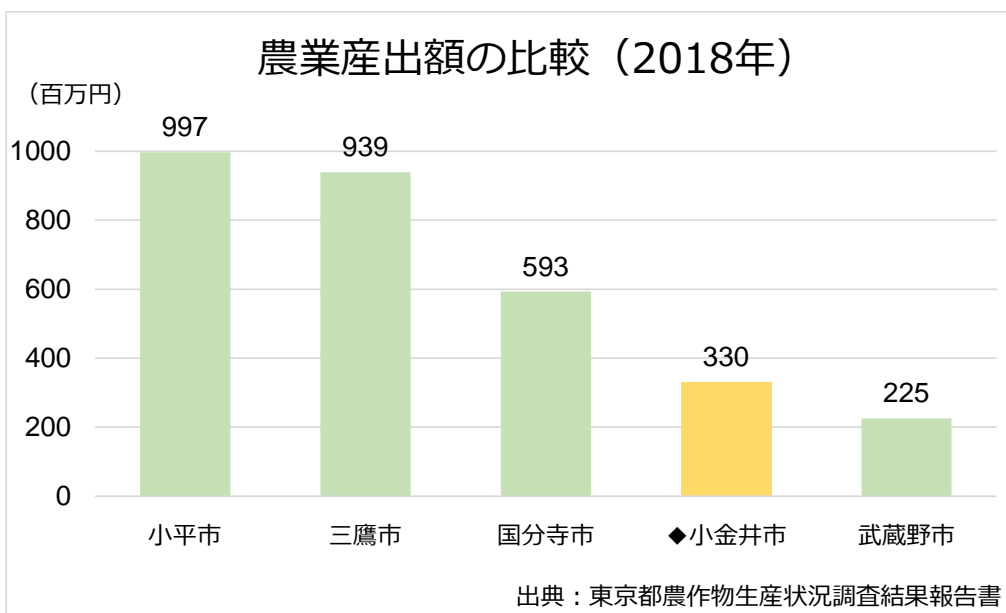
■ 農業産出額の推移

2018年の農業産出額は3億3千万円です。農業産出額は、緩やかな減少傾向にあり、2012年(3億4千万円)と2018年を比較すると、約1千万円の減少となっています。



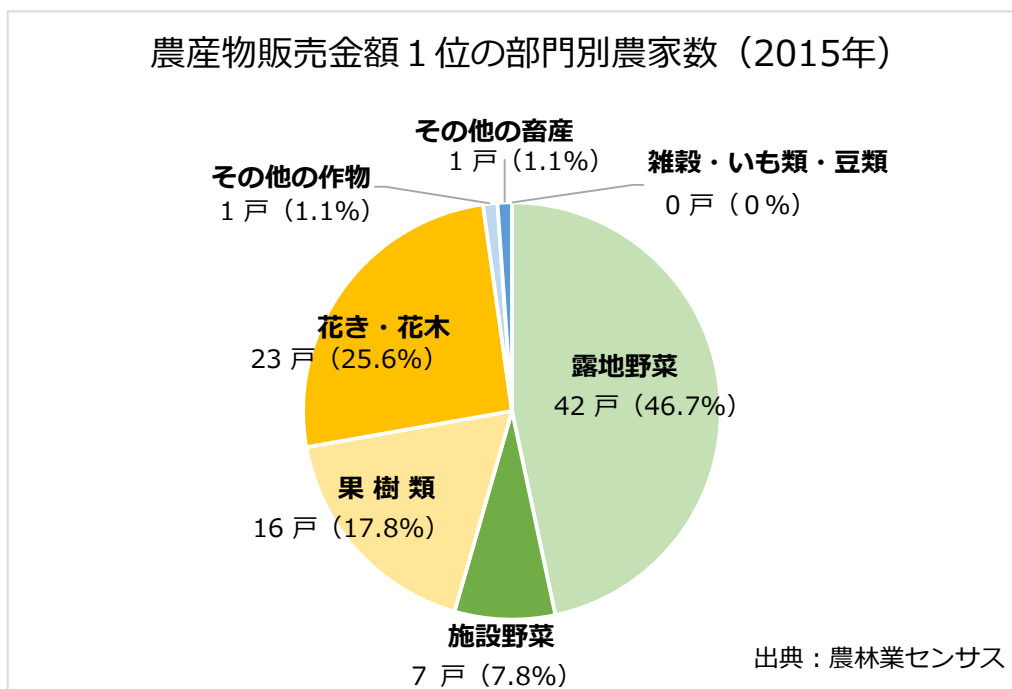
■ 農業産出額の比較

農業産出額について、JAむさしの管轄5市と比較すると、小平市(9億9千7百万円)が最も多く、武蔵野市(2億2千5万円)が最も少なくなっています。小金井市は、武蔵野市に次いで少なく、小平市の3割程度の規模となっています。



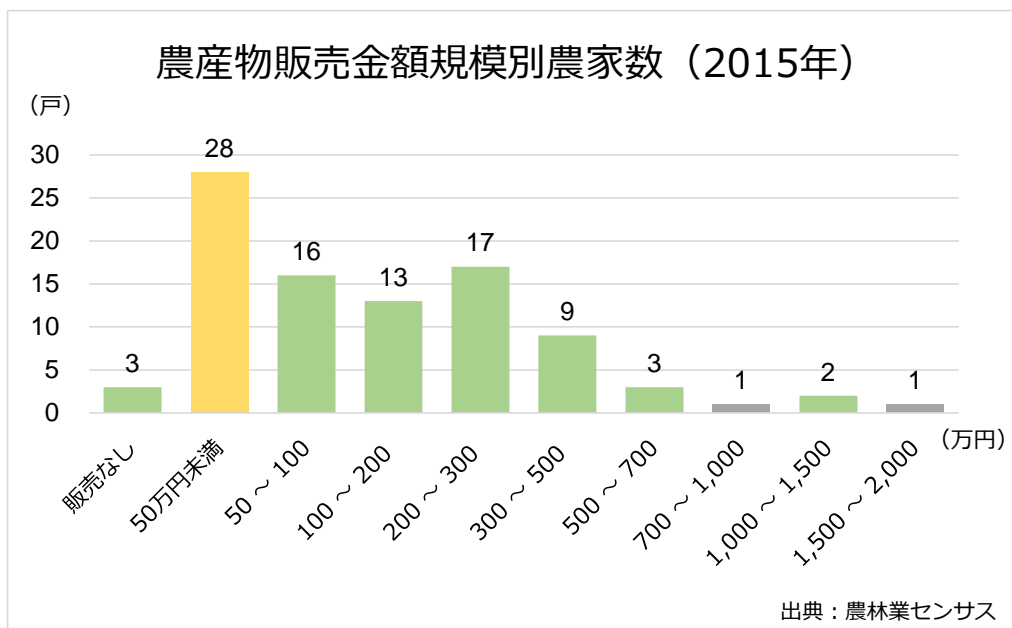
■ 販売農産物（販売金額 1 位の部門別販売農家数）

2015 年の販売農家 90 戸のうち、販売金額 1 位の農産物は「露地野菜」で 42 戸（約 47%）、次いで「花き・花木」が 23 戸（約 26%）、「果樹類」が 16 戸（約 18%）となっています。



■ 農産物販売規模別農家数

2015 年の農産物販売金額規模別農家数は、「50 万円未満」が 28 戸（約 30%）と最も多く、次いで「200～300 万円」が 17 戸（約 18%）、「50～100 万円」が 16 戸（約 17%）となっており、販売金額が小規模の農家が多い傾向にあります。



■販売作物（野菜作付延べ面積上位 10 品目）

2018年の作付面積が最も多い野菜は「小松菜」で3.3ha、次いで「ばれいしょ」が3.0ha、「ほうれん草」が2.9haとなっています。5年前の2013年と比較すると、「きゅうり」の作付面積が増加している一方、「かんしょ」の作付面積が減少しています。そのほか作付されている品目および面積の増減に大きな変化はみられません。

野菜作付延べ面積順位（2013年）

順位	品目	面積 (ha)
1	ばれいしょ	3.7
2	小松菜	3.3
3	大根	3.2
4	とうもろこし	2.0
5	ほうれん草	2.0
6	里芋	1.9
7	ブロッコリー	1.8
8	茄子	1.5
9	枝豆	1.4
10	かんしょ	1.4

野菜作付延べ面積順位（2018年）

順位	品目	面積 (ha)
1	小松菜	3.3
2	ばれいしょ	3.0
3	ほうれん草	2.9
4	大根	2.6
5	スイートコーン	1.8
6	ブロッコリー	1.6
7	枝豆	1.4
8	里芋	1.4
9	茄子	1.3
10	きゅうり	1.3

出典：東京都農作物生産状況調査結果報告書

■販売作物（果樹面積上位 6 品目）

2018年の面積が最も多い果樹は「栗」で9.8haで、次いで「キウイフルーツ」が2.6ha、「柿」が2.4haです。1位の「栗」と2位の「キウイフルーツ」の面積の差は約7.6haと大きい差がみられます。5年前の2013年と比較すると、栽培面積に多少の変動があるものの、栽培している品目や面積に大きな変化はみられません。

果樹面積順位（2013年）

順位	品目	面積 (ha)
1	栗	10.4
2	柿	2.8
3	キウイフルーツ	2.6
4	梅	1.2
5	ブルーベリー	1.2
6	柑橘類	0.6

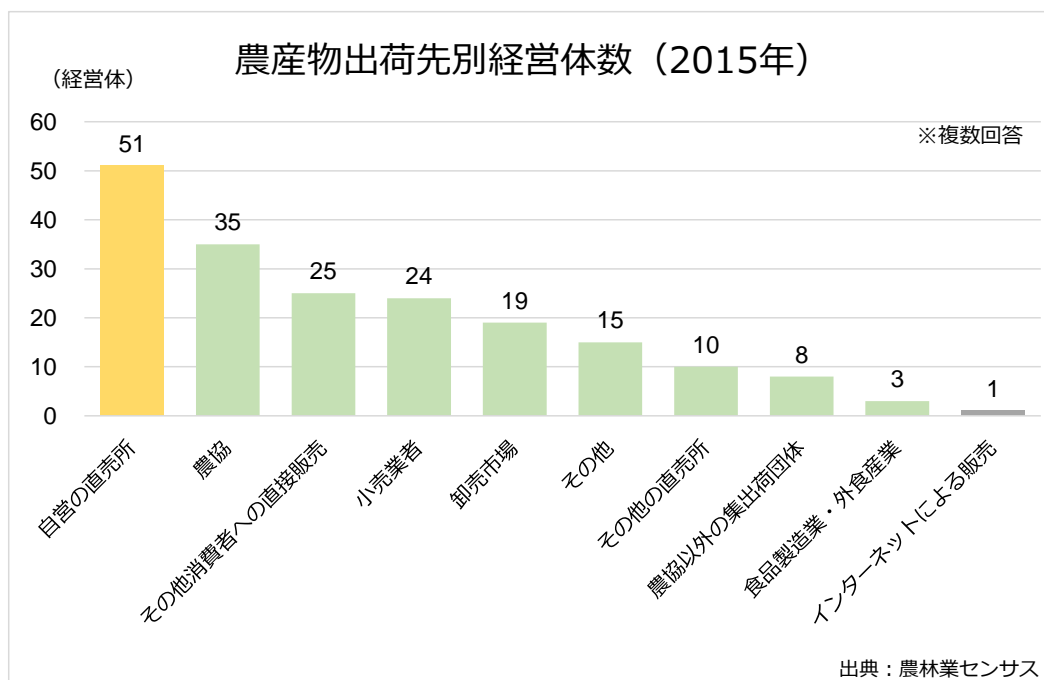
果樹面積順位（2018年）

順位	品目	面積 (ha)
1	栗	9.8
2	キウイフルーツ	2.6
3	柿	2.4
4	ブルーベリー	1.2
5	梅	1.0
6	柑橘類	0.5

出典：東京都農作物生産状況調査結果報告書

■ 農産物出荷先別経営体数

2015年の農産物の出荷先は、「自営の直売所」が最多で51経営体あり、次いで「農協」が35、「その他消費者への直接販売」が25経営体となっています。最も少ないのは「インターネットによる販売」1経営体と、次いで「食品製造業・外食産業」が3経営体となっています。



■ 事業種類別経営体数の推移

2015年の事業種類別経営体は、「消費者に直接販売」が77経営体で最も多く、次いで「貸農園・体験農園等」が7経営体となっています。2005年と比較すると、新たに、「貸農園・体験農園等」、「農産物の加工」、「農家レストラン」、「海外への輸出」が増えており、事業種類の多様化が進んでいます。

